



# 新九郎通信

発行 小田原市栄町2-13-3 (株)伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳  
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

今年も、ゴーヤや朝顔のグリーンカーテンが、軒先に目立ち始めました。節電は、当たり前前の夏となり、我が家も工夫して今年の夏を乗り切りたいです。全国の花火大会が復活をし、小田原の花火も楽しめそうです。銀座通り5画廊による『街なみ再発見!展』も、夏の名物として定着してきました。皆様の作品と共に、絵を前に笑顔で歓談するひと時が今から楽しみです。今年、オリンピックイヤー。熱くなりそうな7月が幕を開けました。

## 新九郎 7月の展覧会のご案内

## 近隣・友の会会員の展覧会情報

会期 展覧会名	見どころ
 7/4(水)~7/9(月) 第4回らくらく展	油彩・水彩画のグループ展 相澤茂・天城準・大岩新子・小田楷・小林光一・近藤満丸・館谷範匡・長南康子・中井一郎・額田幸也・額田光子・二見智
 7/19(木)~23(月) 第10回街なみ再発見!展	自然と歴史に育まれた街「小田原」の建物・街なみを再発見する展覧会。銀座5画廊で開催
 7/20(金) 新九郎デッサン会	18:15-20:45 コスチューム、固定ポーズ 会費 1500円
夏休み こどもフェスティバル 申込・問合せ 0465-22-136 6伊勢治書店 本店	7/25(水)くもん 26(木)ルゾページ 27(金)借成社 30(月)誠文堂新光社 8/2(木)NHK出版 3(金)ポプラ社 6(月)大日本絵画
	めいろ・かみ工作で遊ぼう 鉄道パークラフト&プラキーカット 刊のモニターあさかぜ! お電話にてお確かめ下さい お電話にてお確かめ下さい ひこうき&ライター作り しかけ絵本・カード作り方教室

会期・展覧会名	会場
7/26(木)~29(日) 神奈川子どもの詩の展覧会	アオキ画廊 0465-22-0825
7/5(木)~9(月) 第23回 翔展	ツノダ画廊 0465-22-4263
7/4(水)~9(月) 梅津忠雄・今泉鈴子二人展	飛鳥画廊 0465-24-2411
7/26(水)~29(月) 真夏のフェスティバル	飛鳥画廊 0465-24-2411
7/24(火)~8/5(日) 長友紀子	すどう美術館 0465-36-0740
7/7(土)~22(日) 若き画家たちからのメッセージ展	すどう美術館 0465-36-0740
7/12(木)~29(日)清閑亭現代美術展「視覚の響き」	清閑亭(火曜定休) 0465-22-2834
6/27(水)~7/7(土) 関健作写真展 和顔施	ギャラリー ぜん 0463-83-4031
7/12(木)~15(日) 第15回小田原書道連盟会員展	小田原市民会館 0465-36-5891(山本千紅)
7/17(火)~22(日)器3人展 山下秀樹・大久保和哉・永澤絵	丹沢美術館 0463-83-9550
6/27(水)~7/3(火) 鈴木隆作陶展	横浜高島屋 045-311-5111
7/5(木)~16(月) 第2回鉄道写真三人展	寄りあい処こうづ 0465-47-0933

### 小田原の街なみ再発見! 国府津・昭和レトロの街なみ 4 暮らし・営みが偲ばれる懐かしい街なみを訪ね歩くシリーズ 加藤恭夫



街並みを見て、人と話をし、こころ引かれた所をスケッチする。楽しい時間だ。

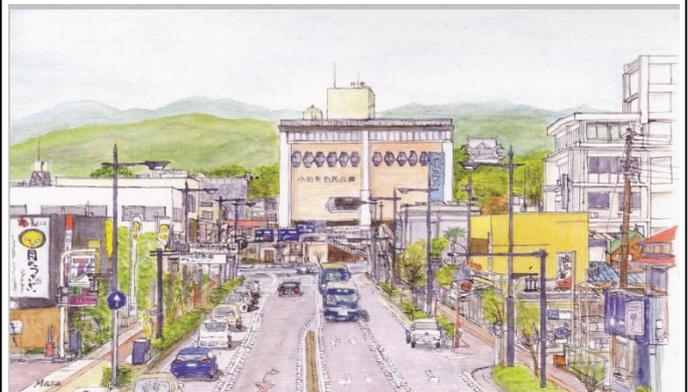
国道1号線の山側に目を向けてみた。日陰でスケッチするので風が少し冷たい。山側の

の建物は南向きで、陽が当たっている。見えてはいるが描き表すのは難しい。

休日のせいか、閉店したのか、店のシャッターは下りている。銅板で装飾された建物の前面がおしゃれだ。空に向かって伸びた柱も気持ちよい。木の枝が北側へ向いているのは海風のせいか、海岸段丘の上にてきた国府津の街並みにはいつも風が吹いている。

家から出て来たおばあちゃんにミカンをいただいた。「おいしいミカンですね。」「ごちそうさま。」国府津を後にした。

## 第10回 街なみ再発見!展



平成24年7月19日(木)~23日(月)

午前10時~午後6時(最終日午後4時迄)

【会場】アオキ画廊・飛鳥画廊・ギャラリー新九郎・  
 ギャラリーコットン倶楽部・ツノダ画廊

◆主催 小田原銀座商店会

◆後援 小田原市、小田原商工会議所、小田原市観光協会

## ようこそ松永記念館

### 世界が注目した画家～井上三綱

井上三綱は、ローカルに活動しながら、国内を飛び越えてグローバルに評価された画家といえる。三綱が小田原で暮らすようになったのは1926年、27歳。酒匂尋常高等小学校教師として生計を立てながら、同郷の洋画家・坂本繁二郎を生涯の師として、画業に打ち込んだ。やがて、様々な技法を組み合わせた独特の画風を確立した三綱は、ジャパントイムズのアートライターから「片足を東洋に片足を西欧に踏まえて、悠然と立っている」と評される。当時ニューヨークで活躍していた彫刻家イサム・ノグチや、画家ベン・シャーンも三綱の実力を認め、交流を持った人々である。物理学者オッペンハイマーは、書齋にピカソの絵と三綱の絵を架け、来日した際には、過密スケジュールの中、半日を入生田の三綱のアトリエで過ごし、「兄弟になろう」と申し入れたという。また、1971年には、世界銀行画廊から招へいされて個展を開催している。画壇での名声も財産も欲せず、ただ作品を作ることに命を傾けていた三綱だが、その画力は、曇りない目を持つ人々を惹きつけて止まなかったのである。(小田原市生涯学習課長 古矢智子)



### 受贈記念特別展「井上三綱—入生田のアトリエから—」

会期：平成24年8月4日(土)～9月17日(祝・月)

会場：松永記念館

料金：500円

問合：小田原市郷土文化館 電話0465-23-1377

## ギャラリーめぐり

### ナラヤカフェギャラリー【箱根宮ノ下】



平日午後三時。仕事を終え、夫と待ち合わせて久しぶりに宮ノ下まで出かけた。板橋、風祭、入生田、箱根湯本。電車から見る町並みが新鮮だ。湯本は平日とは思えない賑わいである。6月の登山電車の名物はアジサイ。色とりどりの紫陽花を車窓に見ながら、電車はゆっくりとスイッチバックを繰り返して登っていく。車内は外国人観光客、若いカップル、ご婦人グループで賑わっている。窓からの風が急に涼しくなる。半そで姿の女性が窓を閉めた。やはり箱根だ。空気が違う。短い乗車だったが、すっかり旅行者気分になっていた。

ナラヤカフェは 宮ノ下の駅前にある。源泉の足湯が人気のおしゃれなカフェだ。今回のお目当てはギャラリーだ。版画家の柿沼朋実さんの新作がかかっている。箱根をモチーフにした作品、温泉につかる猿のファミリーが何ともまったりといい表情で顔がほころぶ。木版画の作品は、レトロなナラヤの雰囲気にもマッチして、ずっと前からここにあったように馴染んでいる。木材を生かした手作りの椅子、遊具、壁の盆栽。丁寧に楽しんで店づくりをされているオーナーのおもてなしの心が伝わってくるカフェ&ギャラリーだ。

足湯は席を譲りあう程の人気だ。裸足になって足湯につかる。源泉の温かさがじわっと上がってきて癒される。ずっと食べたかったパフェに舌つづみを打ちながら温泉気分が味わえる。ギャラリーに戻り、作品を見ながら飲むビールはまた格別だ。窓の外の外輪山の緑が美しい。5時半、帰路につく。電車、ギャラリー、足湯、ビール・・・手軽で豊かな時間は、日常を開放し十分にリフレッシュできた小旅行となった。

新九郎友の会 木下和子

## おまたせ！ 新九郎寄席

2012年7月21日(土)

午後6時開演(開場午後5時半)全80席

料金 前売：1200円 **前売チケット発売中!**

当日：1500円



蛭川 蒼ら



蛭川 春



実福亭 瓶二

会場：ギャラリー新九郎

小田原銀座通り伊勢治書店本店3F

チケット取扱：伊勢治書店本店(0465-22-1366)

1F ご予約カウンター

## 第7回 清閑亭掃除&論語の素読会

清閑亭を、皆でぬか袋を使って磨き竹箒で庭の掃除をした後、さっぱりとした清閑亭で、江戸時代の寺子屋で勉強していた、論語の素読と短歌・俳句の学習をします。夏休みの貴重な体験として、親子でふるってご参加ください。

日時：平成24年8月4日(土) 9時30分～11時

場所：小田原市南町1-5-73 清閑亭※駐車場はありません

内容：清閑亭の建物内、庭の清掃活動 お茶で休憩

論語の素読・短歌と俳句の学習

講師：岩越雄雄

寺子屋石塾主宰・小田原の文化と教育を語る会会長

著書「子供と声を出して読みたい『論語』百章」致知出版社

参加費：無料(持物、雑巾)

【申込先】清閑亭 0465-22-2834

主催 小田原の文化と教育を語る会

後援 小田原市教育委員会

協賛 榑古川 山本算盤教室

寺子屋石塾



＊「川内倫子展 照度 あめつち 影を見る」写真展を見た。階段を上る学生達の後姿。その間を縫うように上方から一筋の光がへりに反射し、まばゆく光りながら連なる数珠のように下降してくる。ありふれた日常の光景を切り取りながら、はつとするような新鮮さがあり、また異次元への想像力を喚び起させる。ビニール袋に詰め込まれた金魚の群れ、鳴門海峡の渦潮、星空に描かれた光の軌跡、阿蘇の野焼きを撮り続けた映像等、地球上のさまざまな事象を通して作家の感覚は、より大きな世界に向けて開かれていく。(東京都写真美術館・7月16日(月・祝)迄)④

＊開成町のあじさい祭りにあわせ、開成町長からの要請もあり、「ソウセイイカフエ」を期間中の土日4日間開催した。とはいえず、事前の準備には力を入れた。脇の道には雨よけに木のチップを敷き、花を植え、外にもソウセイイテラスのベンチを用意した。サイクリングコースの方から来られる方のために、通路の雑草はきれいに草刈りし、工場の屋根には、足柄大橋や小田急からも目立つように絵を描いた。今回は地元足柄アートの参加作品の展示と、地域の方に喜んでいただけそうなワークショップ、カフェのサービスをおこなった。

初日は広川英夫講師による、石に猫を描くワークショップ。お子様も交じって和やかに行われた。お手本が用意されて描くものではなく、それぞれの個性が出て、似たようなものはない。皆さん良い出来栄であったが、特にお子さんの作品は思い切りがよく、大変魅力的であった。若い子育て中の方向けに「おむつなし育児」のワークショップを2回開催した。講師は開成町在住の「おむつなし育児研究所」所長の和田知代さん。本や雑誌の連載を持つ話題の講師で、東京・横浜からの参加者もあり、両日とも20組以上の参加者でにぎわった。カフェ&ギャラリーの中での講座は気兼ねがなく、赤ちゃんと共にリラックスしながらも、熱心に話を傾けていた。ソウセイイカフエの目の前は田んぼで、すぐ裏には酒匂川のサイクリングロードがあり、都会からのお客様も自然を満喫し、アートのある場を充分に楽しんでいただけたようだ。開成町には「ソウセイイカフエ」のような場が無く、このまま活用されずにおくのは惜しい気がする。

6月のこと